

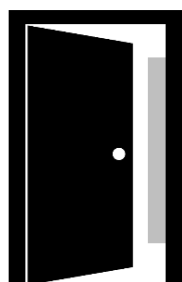
トピックスのとびら

No.179 (2023.3)

Kanagawa
Prefectural
Library

神奈川県
立
図書館

図書館には図書、雑誌、神奈川資料、新聞、視聴覚資料、インターネットといったたくさんの情報のとびらがあります。そのとびらを開いて、時事的な話題を複合的な視点から紹介します。



追悼 大江健三郎氏

大江健三郎氏が、3月3日に88歳で亡くなりました。1958年「飼育」で芥川賞を受賞。「個人的な体験」「万延元年のフットボール」「ヒロシマ・ノート」などの作品で、戦後日本を代表する作家として知られています。1994年には川端康成に続いて日本人で2人目のノーベル文学賞を受賞しました。また、2005年には大江健三郎作家生活50周年、講談社創業100周年を記念して、選考をひとりで行う大江健三郎賞を創設し、第8回（2014年）に終了するまで国内の気鋭の作家に光をあてました。今回は当館の所蔵資料から、大江健三郎氏に関する資料をご紹介します。

特集『ノーベル文学賞受賞 大江健三郎』

「新潮」1994年12月号
第91巻第12巻
p187～p225 Z910.5/140

1994年のノーベル文学賞受賞後の雑誌の特集号です。堀田善衛氏、辻井喬氏、林京子氏をはじめとした10名の人びとが大江健三郎氏について語るほか、「個人的な体験と想像力」として、加賀乙彦氏と津島佑子氏が対談をしています。そのほかに、「大江健三郎の現在」（島弘之氏）、「ヨーロッパの受賞報道から」（立花英裕氏）などの記事が掲載されています。

特集『70年代の政治と性 大江健三郎』

「国文学 解釈と鑑賞」1971年7月
36巻8号 p10～p139
Z910.5/16/36-2

30代半ばとなり、精力的に活動していた頃に、「主題と方法」「文学の構造」「文学と位置」「海外文学との交流」「主要作品の分析」「大江健三郎をめぐる同時代批評」という構成で特集が組まれました。

目次には、「この特集では、大江健三郎の思惟・方法・構造、文学史的な位置づけ、主要作品の分析など多面的な視点の設定によって総体的にとらえ、深みのある考察をしました。」と記載されています。

その他にもこんな資料を所蔵しています

■ 新聞のとびら

記事名	掲載紙	掲載日・ページ
大江健三郎さん死去 88歳 ノーベル文学賞 反核訴え	朝日新聞	2023年3月14日 朝刊 1面 ※11面 海外から悼む声 33面 池澤夏樹さん寄稿 36面 評伝
大江健三郎さん死去 88歳 ノーベル賞作家	読売新聞	2023年3月14日 朝刊 1面 ※評伝 37面 関連記事 15・37面

■ 雑誌のとびら

記事名・著者	雑誌名	巻号・ページ	請求記号
『水死』のほうへ —大江健三郎と沖縄 (加藤典洋著)	すばる	第39巻第5号 2017年5月 p 58- p 81	Z910.5/121
沖縄について考え続けている こと (大江健三郎著)	世界	第859号 2014年8月 p 41- p 47	Z051/3
未成の夢—大江健三郎論(1)— (川西政明著)	群像	第33巻第3号 1978年3月 p 200- p 213	Z910.5/69 /33-1

■ 図書のとびら

書名	著者等	出版者/出版年	請求記号 (資料番号)
大江健三郎と「晩年の仕事」	工藤庸子著	講談社 2022年	910.26/4138 (23352305)
無垢の歌 大江健三郎と子供たちの物語	野崎歆著	生きのびるブックス 2022年	910.26/4175 (23379258)
大江健三郎とその時代 「戦後」に選ばれた小説家	山本昭宏著	人文書院 2019年	910.26/3737 (23096753)
大江健三郎作家自身を語る	大江健三郎著 尾崎真理子／聞き 手・構成	新潮社 2007年	910.26SS/2579 (22067599)
私(わたし)という小説家の作り方	大江健三郎著	新潮社 1998年	910.26GG/1614 (21039680)

お問い合わせ：神奈川県立図書館 資料部情報整備課

〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘 9-2 代表電話：045-263-5900

ホームページ：<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/index.html>

